

合三駆立ラレテ、京方悉打負同國堺ノ庄ヘ引退ク、勝ニ乘テ澄元勢ハ中島邊迄攻入タリ、攝州兵庫ノ津ヘハ、細川淡路守成春兵船ヲ著ケ、押上シテ難波ノ庄マデ攻上レバ、高國方ノ勇士河原林對馬守正頼同國蘆屋ノ庄上ナル鷹尾ノ城ニ楯籠テ、是ヲ防ギ留ントス。略 中

三好希雲居士降參自害事

細川高國沒落シケレバ、同○十七年二月廿七日、三好入道希雲居士京都ヲ差テ攻上ル、威勢權柄アタリヲ拂テ見ヘニケル、同三月十六日、細川右京大夫澄元神呪寺ノ陣ヲ拂テ、伊丹ノ庄エ移リケレバ、攝津國ヨリ京都マデ、軍兵巷ニ滿タリ、

〔古野文書〕新右衛門等請狀

定

一今度當町火付有之ニ付而改可被申事、或はばくち類之儀仕候もの有之か、或は作りとても商内にても不仕不思儀成徒者有之か、一町切に被致穿鑿於有之者、縦縁者親類たりと云共見隱聞隱なく、有様に可被申上候事略 中

巳二月廿四日

伊丹町 紙屋與左衛門殿

豊島屋與二郎左衛門殿

小川又左在判

〔續應仁後記〕常桓禪門最期事

去程ニ、三好筑前守元長ハ合戦ニ打勝テ、四國勢、赤松勢、何レモ頸數多討捕ケレ、共未ダ細川常桓ノ頸ハ見ヘザリケル程ニ方々エ手分シテ、常桓ノ行衛ヲ搜シ索ル、村々里々ハ云ニ不及、木ノ茂リ草ノ陰迄尋ヌ所ハ無ツケリ、常桓禪門ハ六月○享祿四年四日ノ戰場ヲ落延テ、播磨路エ趣キケレ共、敵徒路々ヲ遮テ、落行方モ塞リケレバ、大物ノ庄ノ民家エ入テ、紺屋ヲ賴テ忍居ラル、○中搜ス兵共紺屋エムズト押入テ、紺搔ノ男ヲ搦置、其外多勢シテ彼藍瓶ヲ取ノケ、隠レン法師ヲ出シ見